

# 最近の特異火災から 共同住宅（<sup>らくえんそう</sup>楽園荘）火災概要

東大阪市消防局

年の瀬も押し迫った大晦日未明の共同住宅火災において、死者6名負傷者2名を出した、東大阪消防有史以来の大惨事が発生した。

現場は、近鉄奈良線及び大阪線と交わる「布施駅」から南南東500メートル、近鉄大阪線「俊徳道駅」から西へ650メートルに位置する場所で、準防火地域に指定された住居地域である。

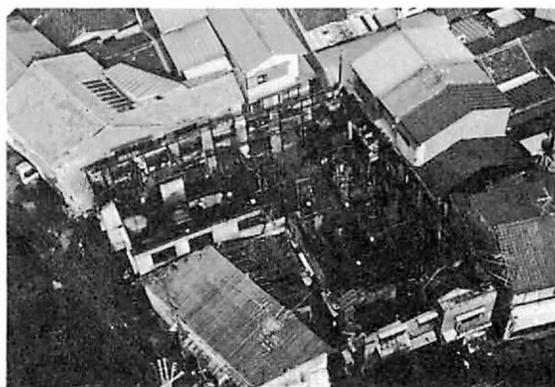


図1 現場状況 大阪府警察本部提供

付近一帯の状況は、木造建築物の住宅が密集し、道路幅員も狭く、一步誤れば街区火災に拡大する恐れのある地域である。このような悪条件下に所在する火元建物は、建築後37年を経た老朽家屋であり、また、乾燥注意報発令下であったため、火の回りが早く、加えて発生時間帯や独居老人家庭が多いという悪条件が重なり、消防隊の懸命の消火活動のいかにもこのような火災に至ったことは、誠に痛恨の極みである。

ここに犠牲者のご冥福をお祈りするとともに、再び、このような惨事が起こらないよう切望し、本火災の概要を紹介し参考に供することにする。

## 1 出火場所

東大阪市三ノ瀬2丁目1番27号 共同住宅  
楽園荘

## 2 所有者

森本隆義こと裏国祥（76才）

## 3 出火日時（推定）

昭和63年12月31日（土） 3時15分ごろ

## 4 覚知方法

火災報知専用電話

## 5 覚知状況

3時22分、火元建物東側に居住するO氏より、119番通報で「三ノ瀬2丁目1番30号のアパートが火事です」の一報で覚知した。

## 6 覚知時間

12月31日 3時22分

## 7 鎮圧日時

12月31日 3時51分

## 8 鎮火日時

12月31日 6時46分

## 9 焼損程度

(火元棟)

木造瓦葺モルタル塗り 2階建共同住宅 1棟  
1戸35室278平方メートル延べ556平方メートル全焼。

(類焼棟)

木造瓦葺モルタル塗り 2階建住宅等 4棟の外壁一部焼損。

10 損害額

766万円

11 死傷者

焼死者 6名(男2、女4)

負傷者 2名(男2)

12 出動車両及び人員

ポンプ車 10台 タンク車 1台

救急車 2台

化学車 2台 救助工作車 1台

スノーケル車 1台

指揮車 1台 電源照明車 1台

小計 車両19台 人員73名

消防団 車両3台 人員32名

合計 車両22台 人員10名

13 気象状況(12月31日3時0分 消防局調)

天候(晴れ) 風向(無風) 風速(0)

温度(5℃) 湿度(82%) 実効湿度

(62%)

乾燥注意報発令中(12月30日 5時30分発令)

14 出火原因

調査中

15 り災世帯

(火元棟) 24世帯 27名(男15、女12)

(類焼棟) 5世帯 14名(男7、女7)

合計 29世帯41名

16 出火当時の状況

火元共同住宅には1階17室、11世帯12名、2階18室、13世帯15名が居住し、35室のうち11室が空室又は物置として使用されていた。

出火当時は1階に10世帯10名(男7、女3)、2階に12世帯13名(男6、女7)が在宅していたが、そのうち9世帯9名(男4、女5)が独居老人であった。

17 通報状況

火元建物と路地を挟んで東側の住宅に住んでいるO氏が、ガラスの割れるような音に気付き寝床より起きて外へ出ると、火元建物の東側に位置する16号室が真赤に燃えていたので、119番通報している。

18 第1発見者の状況

火災初期の第1発見者は、火元室の住人であると思われるが、焼死したため状況は不明である。

次に火災を発見したのは、同共同住宅2階西端の住人S氏で、出火直後ごろ2階北東部にある共同便所で小用中、煙が出ているのに気づき、更に便所より南へ約12メートルの位置にある屋内階段から黒煙が激しく噴き出しているのを発見。大声で住人に火災を知らせ自室の窓より隣家の屋根へと避難している。

19 初期消火の状況

S氏の声で火災を知った1階の住人R氏は、1階北東部の共同便所前までくると、火元室の住人から自室が火事だと知らされ、洗面器の水で火元室の消火に当たったが、室内が猛炎で全く効果がなかった。

20 消防活動の状況

(1) 出動指令

第1次出動 3時23分 9隊 32名

第2次出動 3時29分 7隊 28名

第3次出動 3時38分 3隊 13名

(2) 先着隊到着時の状況

現場直近にある足代出張所の消防隊2隊は出動後、目標方向ですでに火煙が直上に噴き上げているのを確認しており、現場到着時には、建物全体が火炎に包まれ、すでに屋根も燃え抜けて、外壁だけが火炎の進展を阻む状態で残存しているだけの状況に見受けられ、建物内への進入は不可能であった。

(3) 人命検索活動

火元建物は、すでに建物全体が火炎に包まれており屋内進入は不可能であった。隣接建物に対して実施するも、すでに全員が避難しているのを確認している。

(4) 救急活動

居住者(男2名)が避難時に気道熱傷、

腰部捻挫により負傷したもので、救急車で近くの救急指定病院へ搬送した。

21 避難状況

出火時1階に在宅していた10名のうち8名は、南側玄関及び西側出入口から避難した。また、2階に在宅していた13名のうち7名は、中央階段から1階へ降り西側出入口から避難した。

初期消火に従事した男2名は、再度自室に戻ったことにより、避難時期が少し遅れたため窓から避難した。

避難時期を失った6名のうち2名は自室で、死亡し、他の4名は何らかの避難行動を起こしたが、猛炎のため避難出来なかったものと推察される。

22 焼死者の状況

表1のとおり

表1 焼死者の状況

番号	階数	室番	氏名	性	年齢	状況(推測)
1	2	23	A	男	46	火災の発生に気付き、自室より2階廊下へ出て避難を試みたが、南側階段を降り、南側玄関の内側で焼死。
2	1	16	B	女	73	自室の火煙に気づき、避難すべく、鉤型廊下の角まで避難したが火煙に煽られ焼死した。
3	2	29	C	女	81	火災に気づくのが遅れ、自室より北側階段を降り、廊下を西へ避難を試みたが5号室前廊下で焼死した。
4	2	24	D	女	79	火災に気づくのが遅れ、自室の何州内で火煙により焼死、1階7号室内で焼死体となって発見される。
5	2	26	E	女	75	火災に気づくのが遅れ、自室より廊下まで出たが、時すでに遅く自室前東西廊下にて焼死し、西側入り口付近で焼死体となって発見される。
6	1	10	F	男	48	火災の発生に気づくのに遅れ、自室内で煤煙にまかれ、後、火災により焼死した。

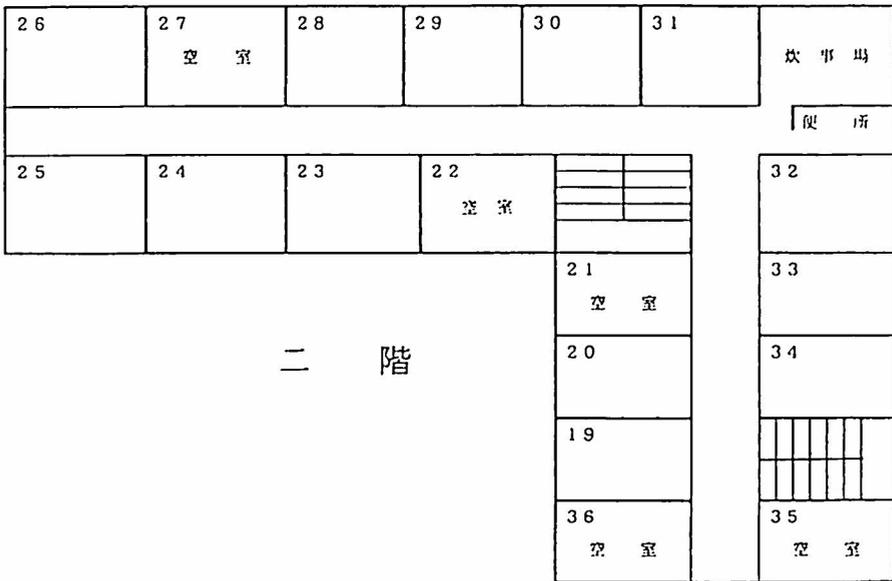
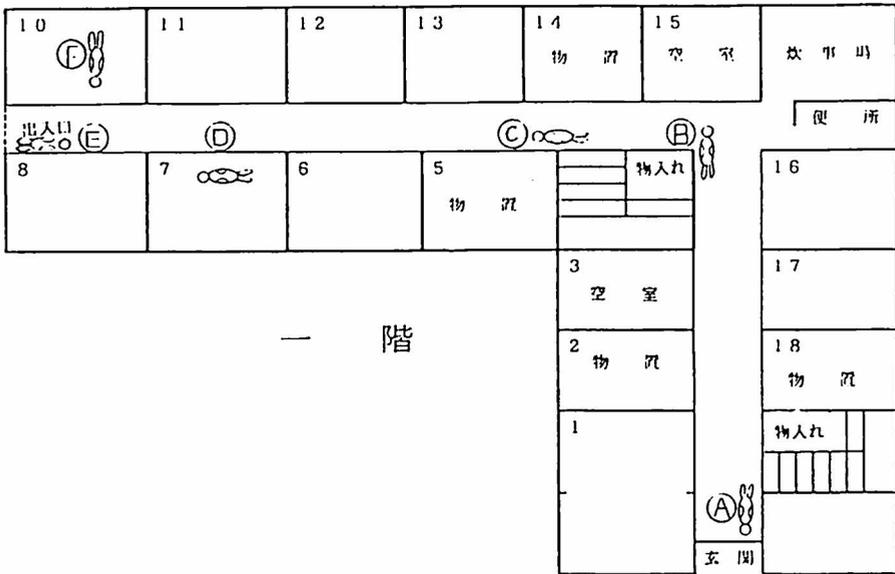


図2 焼死者発見位置図

## 23 付近の水利状況

火元建物を中心として、半径150メートル以内には、公設消火栓15箇所あり、水利は比較的めぐまれた場所であった。

## 24 建物概要と消防用設備

### (1) 構造様式木造瓦葺モルタル塗り2階建

共同住宅1棟1戸

建築年月日－昭和27年 敷地－446㎡

建面積－278㎡ 延面積－556㎡(建築確認申請時)

### (2) 消防用設備

ア ABC粉末消火器(1.2kg入り)4個

イ 漏電火災警報器 1個

ウ 避難口誘導灯 小型 4個

### (3) 立入検査状況

昭和44年から毎年1～2回実施、62年4月9日まで計23回実施している。この間、不備事項が改善されたため過去の2回の検査結果は指示事項なし、また、9名の独居老人については、別途に独居老人家庭防火診断を実施している。

## 25 本火災の問題点と対策

本火災は、深夜3時15分頃の発生で入居者の殆どが熟睡状態にあったため、発見通報がかなり遅れたこと、また、昭和27年に建築された木造の老朽建物(中廊下式の共同住宅)で、かつ乾燥注意報発令下であったため火の廻りが早く、一気に延焼拡大したこと、並びに入居者の多くは独居の高齢者のため避難が容易にできなかったことなどの悪条件が重なり6名が焼死する惨事となった。

### {その後の対応策と今後の方針}

この災害の教訓をもとに、この種の火災の再発防止を図るため、高齢者等災害弱者が

居住する共同住宅の立入検査と独居老人家庭全戸の防火診断を実施するとともに、老人向け防火チラシを作成し、全員に火災予防について指導した。

### (共同住宅)

#### (1) 実施対象 60対象

ただし、昭和36年3月31日以前に建築された延面積200㎡以上の木造建物で独居老人が居住しているもの。

#### (2) 今後の対応

ア 不備事項に対しては、即時改善を指示するとともに、防火避難に係る必要な指導を行ったが、更に、今後の立入検査等を通じ指導の強化を図ることとした。

イ 多数(概ね5人以上)の独居老人が居住する共同住宅にあっては、火災が発生すれば人命危険の恐れがある対象物として防ぎょ計画を作成し、警防体制の強化を図ることとした。

### (独居老人)

#### (1) 実施対象 2,738戸

#### (2) 今後の対応

ア 防火上、避難上等の必要な事項について指導を行ったが、寝たきり老人家庭(132人)に対しては、本年8月に再度防火診断を実施することとした。

イ 平成2年以降も毎年2回防火診断を実施する。

ウ 実施結果を市福祉部等関係機関に連絡し、今後の高齢者対策について相互の連携を図ることとした。